

算命学中庸

【初年】 16回目

16回目の授業はこのページからです。

授業科目 【宿命の観方・読み方】

【初年】 16回目 【宿命の観方・読み方】 01

①女性 は「私に……子供は生まれるでしょうか？」「生まれるとしたら……私と子供の縁を知りたいのです？」と占う側に要望したとします。

占う側⇒ 〈お客様は子供が生まれるかどうか知りたい。そして、子供が生まれてきたとすれば、お客様と生まれたお子さんとの縁を知りたいのですね〉 多分このように確認するでしょう。

㊤女性⇒ 「そうです。子供との縁が知りたいです」

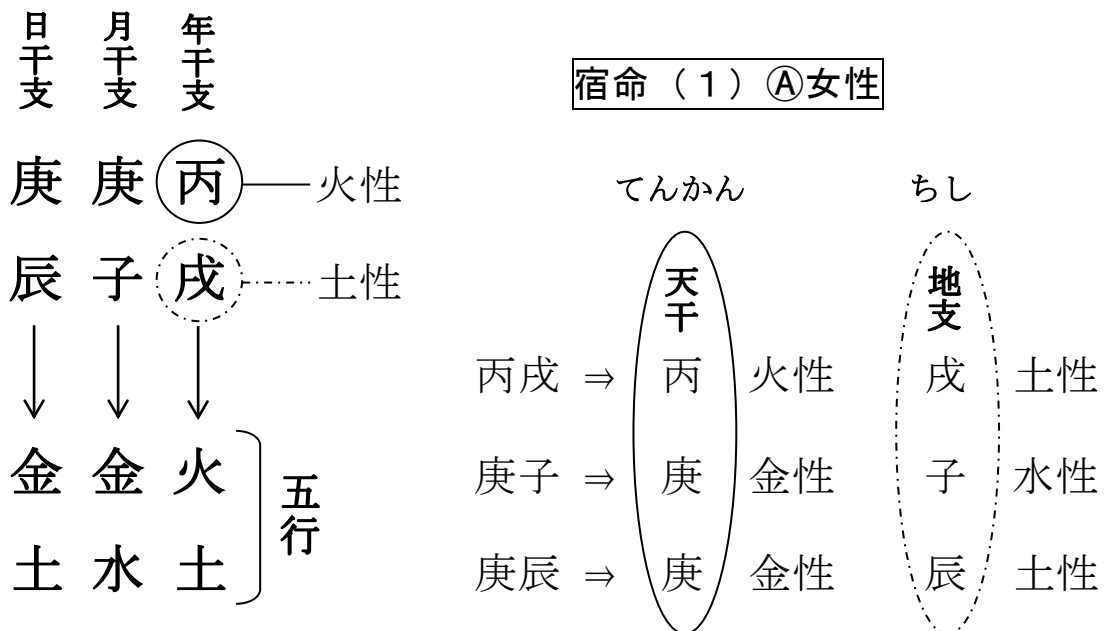
占う側⇒ 女性の生年月日をお訊きして宿命をだします。

ここでの授業は〔2006（平成18）年12月17日〕に生まれた

㊤女性 の宿命を、五行に書き改めるところからはじめます。

宿命を〔五行〕に書き改めると ^{もっかどごんすい}〔木火土金水〕の質になります。

⇒〔2006（平成18）年12月17日〕生まれ ㊤女性 の宿命です。



宿命を〔^{もくせい}木性・^{かせい}火性・^{どせい}土性・^{きんせい}金性・^{すいせい}水性〕に書き改めます。

年干の「^{へい}丙」は火性です。

月干の「^{こう}庚」は金性です。

日干の「庚^{こう}」は金性です。

年支の（戌^{いぬ}）は土性です。月支の（子^ね）は水性です。

日支の（辰^{たつ}）は土性です。

甲^{こう}木^{ぼく}とか、丙^{へい}火^かとか、戊^ぼ土^どとか、つまり〔木火土金水〕
を付記した読み方で覚えてください。

甲^{こう}は木性、丙^{へい}は火性で、戊^ぼは土性ということがわかります。
あとあと占いをしやすくなります。

最初のうちは、キチンと五行に書きあらわしたほうがよいとおも
います。ノートなどに書いて練習してください。

慣^なれてくれば、丙^{へい}は火性で、午^{うま}も火性だとわかります。

㊤女性 の日干は「庚^{こう}」ですから、彼女自身が「庚^{こう}」です。

「庚」は「庚金^{こうきん}」自然界では岩石を意味します。

ものに例えれば〔斧とか刃物〕です。

五行になおしたら、この宿命を風景に描^かいて考えるのも
よいでしょう。

☞ 宿命を風景として描くとわかりやすいのです。

宿命（2）風景



庚は金性を陰陽でいえば、陽の金性なので、主体性のある大きい金性です。

それを岩山^{いわやま}とか、岩石^{がんせき}というふうには……物質にたとえるのです。

この宿命には、丙火^{へいか}（太陽）と、子水^{ねすい}という川もあり、戌土^{いぬど}があるから山^{やま}があり、2つの庚金^{こうきん}2つあるので岩山もあります。

そして辰土^{たつど}（畑）が広がっています。

宿命の風景を描くとこのような感じになるでしょう。

月支は季節をあらわし、（子）は冬至^ねの位置にあり真冬です。

田畑^{しもぼしら}は霜柱が立っているかもしれません。

川は流れていれば凍らずに済みますが、川の表面は凍りついているかも知れません。

冬の太陽が照っています。

Ⓐ女性 の日干は「庚^{こうきん}金」なので岩山です。

この宿命の「季節はいつなのか」ということが、とても重要になってきます。

宿命 (3) Ⓐ女性

生年月日 [2006 (h18) 年 12 月 17 日]

日 月 年
干 干 干
支 支 支

庚 庚 丙

辰 (子) 戌 季節は月支でみます。ここでは冬です。

月支は
季節を表す

(子) は冬の十二支

誰でも生まれた月は (月支) であらわします。

季節をあらわすのは月支です。月支に (子) がありますから子月になります。子月は季節でいえば真冬です。十二支は春夏秋冬の 4 季節に分類できますよね。

十二支の (亥子丑) は、冬に分類される十二支でした。女性は 12 月生まれなので、季節は冬生まれになります。

(詳細に観るときは、すべての干支を見て判断します)

(すべての「干支」を見て判断する) というのは……

算命学はその人の生まれた月を (月支) で判断します。

月支は（子）^ね ですから、この女性は真冬の子月^{ねづき}に生まれ
ことになります。

（子）^ね は真冬の十二支です。

十二支盤で冬至^{とうじ}の位置にあるのが（子）です。

㊤女性 の日干は「庚^{こう}」です。つまり「庚金^{こうきん}」です
ここでは庚金を岩山にたとえています。

庚金は（陽）の金性なので、鉄塊^{てっかい}といえますし、自然界
でいえば岩石^{がんせき}とか岩山^{いわやま}にたとえます。

そうしますと、㊤女性 は“冬の岩山のような女性”という
ふうにいえます。冬の岩山に、太陽が照っていますから、
なんとか凍らないでそびえています。

自然のなかで、そのような宿命であろう……と考えるわ
けです。

（子）子水^{ねすい}のことですから、五行は水性です。

凍った水中^{すいちゆう}に沈んでいる鉄塊^{てっかい}ともいえるのです。

☞ 実際に占うときには、お客様のご要望に^{しょうてん}焦点を合わせて、さまざまな状況を考えながら占います。

〔たとえば〕〔恋人のこと……結婚について知りたい〕と
いうことなら、相手の生年月日が必要になります。

〔自分にどんな子供が生まれてくるのか知りたい〕とか、
〔適職についてしりたい〕〔自分の金運を知りたい〕
お客様のご要望はさまざまです。

鑑定ではお客様のご要望に答えるため、算命学の技法を
つかって観ていくわけです。

☞ 宿命(2) ㊤女性 あるいは 宿命(3) ㊤女性 をみて……

〔2006 (h18) 年 12 月 17 日〕に生まれた女性の自然環境を想像
して頂きたいのです。

日干「庚金=女性自身」はものに例えて^{いわやま}岩山です。

真冬の自然のなかに岩山が^{そび}聳え、太陽が照っています。

このような冬の自然界のなかで、岩山が栄えるためには、
五行のなかでなにを必要とするのかを考えるわけです。

そうしますと、ひとつには、丁（丁火 ^{ていか}）が必要です。
なぜかといえば、太陽は照っていますが冬の太陽は陽射し
が弱いので寒いです。

岩山が凍りつかないようにするためには、もう1つくら
い火性があったほうがよいのではないか……そんなふう
に考えるわけです。

岩山が凍ってしまうと……そこに生息する生き物たちが
生息するために必要な、植物・食物も凍ってしまうで
しょう。

そうしますと、^{へいか}丙火（太陽）の^{ほさ}補佐（暖かくするため）として、
陰の火性の^{ていか}丁火があれば、岩山にとっては有り難い存在
です。㊤女性 自身が凍りつかないので有り難いです。

^{へいか}丙火はものにたとえて太陽です。

^{ていか}丁火は燃えている火、暖をとるためのストーブにたとえてもよく。

（鑑定の内容によってつかいわけます）

冬の岩山で、もし太陽の暖かさが弱ければ、この岩山は
凍り付いてしまっ、自然界では危険ともいえますし、
何の役にも立たない存在になってしまいます。

(人間も真冬では陽が照っていても、焚き火で暖をとりますし、
部屋のなかでは暖房を必要とします)

冬の岩山の女性にとって、なにが必要なのかといえば、
自分を暖めてくれる火性が必要です。

丙火 (太陽)、丁火 (燃える火) は有り難いのです。

その太陽を宿命のなかで探すと「丙火」があります。

まだ勉強していませんが……年支 (戌) の二十八元の本元に
〔丁〕という〔蔵干〕が入っています。

⇒ 宿命 (4) ①女性

[2006 (h18) 年 12 月 17 日] 生まれ

庚 庚 丙 ———— 年干 (ねんかん) は 丙火 (へいか)

辰 子 戌 ———— 年支 (ねんし) は 戌土 (いぬど)

乙 辛 初元 (しょげん)

癸 丁 中元 (ちゅうげん) > 二十八元 (にじゅうはちげん)

戊 癸 戊 本元 (ほんげん)

二十八元 (にじゅうはちげん) のなかに入っている「干」を〔蔵干〕といいます。

年支 (戌) の二十八元に入っている蔵干は〔辛金・丁火・戊土〕

の3つです。

月支（子）の二十八元の蔵干は〔癸水〕1つだけです。

日支（辰）の二十八元に入っている蔵干は〔乙木・癸水・戊土〕の3つです。

🔍 二十八元表（にじゅうはちげんひょう）という表に記載されています。

🔍 【初年】 1回目【宿命の運命】 16頁の《小泉進次郎》を参照ください。

⇒ **㊤女性** の日干は「庚」です。

「庚」つまり「庚金 こうきん」が日干ですから、彼女自身を意味します。

㊤女性 は「私に……子供は生まれるでしょうか？」「生まれるとしたら……私と子供の縁を知りたいのです？」と占う側に要望したわけです。

そうしますと **宿命（4）㊤女性** のなかに、子供がいるのかどうかを観るわけです。宿命を読むと……彼女の子供は（子）の二十八元にいる〔癸水〕と（辰）の二十八元にいる〔癸水〕です。

宿命に子供は2人でていますから、子供と縁があります。

どうして〔癸水^{きすい}〕が子供なのかということについては、まだ勉強していませんが、『六親法（ろくしんほう）』という技法をつかいます。

親と子の縁^{えん}（親子関係）というのは、絡み合^{からあ}っています。

親にとって〈有り難い存在なのか〉〈有り難くない存在なのか〉
〈育てやすいのか〉〈育てにくいのか〉さまざまです。

それは、子供にとってもいえることです。

子供にとって〈有り難い親なのか〉〈有り難くない親なのか〉

占う側は ①女性のご要望に応じて答えをだすのですが、『子供との縁^{えん}』といってもいろいろあるわけですから、このような場合、本人と子供の関係を訊くとよいですね。
〈どのような状態なのか？〉〈なにか理由があるのか？〉などを訪ねるわけです。

☞ 話しを ①女性にもどします。

宿命（2）風景を観ると、川が凍るのを防ぐ太陽はありますが、その陽射しを遮^{さえぎ}る山もあります。

山が太陽の陽射しを遮断すれば、川の水は凍ってしまいます。

庚金は「斧とか刀」といえますから、どちらにしても、彼女にとって、水の存在は困ります。

なぜかといえば……真冬の水は寒さが厳しければ、^{ひょう}霰・^{あられ}霰・^{ゆき}雪になります。日干「庚金」の彼女は、物に例えれば刃物です。刃物が錆びれば役に立ちません。

庚金は陽の金性で、癸水は陰の水性ですから、プラスとマイナスで結びつきやすいのです。結びつけば庚金（^{かなもの}金物）は錆びてしまいます。[錆びるということは、庚金（^みみ）の身（^{けず}けず）を削ります]

☞ 彼女は「自分と子供との^{えにし}縁を知りたいのです？」と、要望したわけです。

☞ ここでは、彼女の宿命はわかりましたけど、未婚ですから、夫の宿命も、子供の宿命もわかりません。

ここでは **㊤女性** の宿命だけで判断することになります。

宿命に子供がいるのか……と観ると、月支（子）の^ね本元（^{ほんげん}）に癸水、日支（辰）の^{ちゅうげん}中元にも癸水がいます。2つの癸水は彼女の子供です。彼女は子供と縁があると宿命に書いてあります。

占う側 「自分と子供との縁えんを知りたいのです？」という女性の要望に応じて、彼女の宿命に書かれていることだけに限定して宿命を読みました。

①女性 の宿命には、子供縁こどもえんがあると書かれていますが、その子供との縁は彼女にとっては〔有り難い縁なのか〕〔有り難くない縁〕なのかということにもなるわけです。

そうしますと、彼女は「庚金」です。子供は「癸水」ですから、「彼女が子供との縁えんを篤あつくすればするほど、自分が錆びてしまうのです」つまり、彼女自身の運勢を落とすことになります。と書かれています。これが答えです。

ここでの話しは **①女性** 宿命だけを観ての答えです。

彼女が結婚すれば……結婚した夫の宿命、生まれた子供の宿命があるわけです。

夫にとって生まれてきた子供が、夫自身には有り難い存在ということもあるのです。

それらの宿命を観たときに、答えが異なってくることになります。

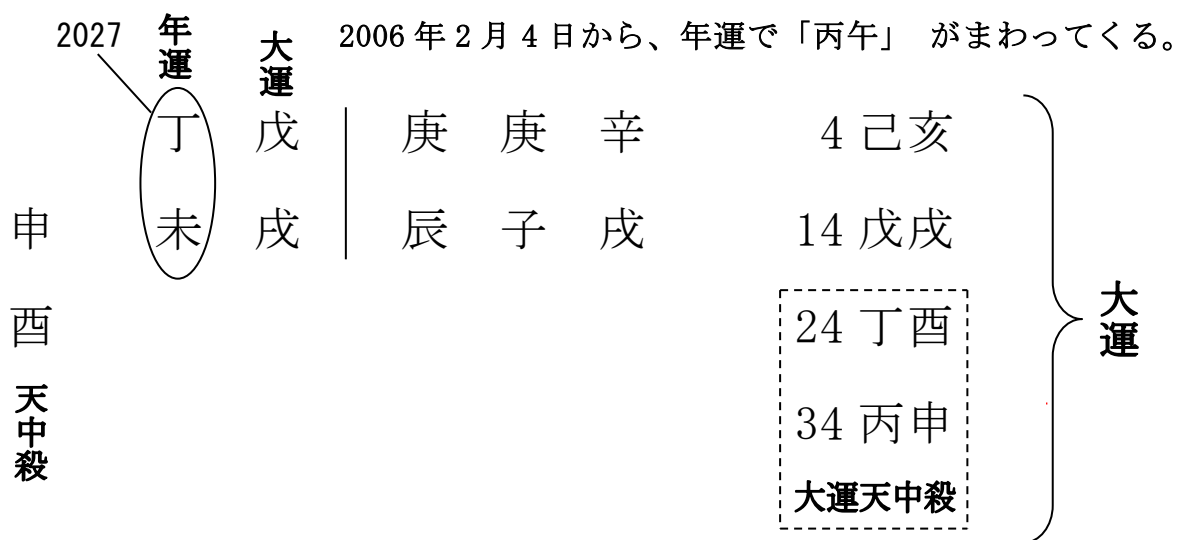
答えが違ってくるのは当然です。それはそれ、これはこれです。

☞ 母親と子供との関係は「除外して」つぎのような観方もできます。

年支（^{いぬ}戌）の二十八元の^{くら}蔵のなかにある〔^{てい}丁〕の年がまわって来たときは、**㊤女性**にとって大変ありがたいのです。なぜなら「太陽を補佐する丁火がまわってくる年がくれば、自分が凍りつかない」というふうに考えることができます。

宿命（5）㊤女性・有り難い「火性」 [2006(h18)年12月17日] 生まれ

2007年は「丁未」の年ですから、自分が凍りつかないということです。



2027年12月17日がくると **㊤女性** [21歳] になります。

この女性は〔24歳〕から、20年間の**大運天中殺**に入りますから、

たううんてんちゅうさつ
大運天中殺に入る前に自分の進路を決めるとか、結婚は〔24歳〕になる前にするのがよいのです。人生を左右するような事柄は、両親が生きているうちに済ませておくとよいといえます。

ところが……**㊤女性**にとって有り難い丁火（火性）の年がとしまわって来ても、その火性をやっつけてしまう（火を剋す）ものがあると困ります。それは水性です。

水性は（水→×火）と丁火をこく剋します。

せっかくまわってきた有り難い「丁火」のチカラを衰えさせる、消してしまおう。

そういうことも起こりますから注意が必要です。

実際の鑑定においては、このようにさまざまな観方があります。そして、より詳しく観る鑑定の技法がほかにいくつもあるのです。

㊤女性の場合は「自分と子供との縁を知りたいのです？」ということでしたから、本人と子供についての縁えにしに限定して想定したわけです。

鑑定は、お客様のご要望に沿って占います。

⇒ **㊤女性** の日干は「庚」で自分自身だといいましたが、宿命内にある『場所』がもつ意味合いがあります。月干というのは『子供の場所』になります。

宿命（6）㊤女性（宿命内の人物の場所）

自分自身	子供の場所	父親の場所	
庚	庚	丙	年干の「丙」は父親の場所にある
辰	子	戌	年支の（戌）は母親の場所にある
配偶者		母親の場所	日支（辰）は配偶者の場所です

このように
人物の場所があります

宿命内にある人物の場所は、誰の宿命でもおなじです

㊤女性 の子供は、母親と比和（庚と庚）の関係ですから、自分と母親を対等に見ようとする子供といえます。

宿命（4）㊤女性 には、二十八元の蔵干も書かれていますから参照ください。

二十八元にある〔癸水〕を子供に採れば、子供は水性になります。「庚金=母親」を鑄びつかせる〔癸水の子供〕は、母親にとっては、育てにくい子供といえます。

そして、母親を「庚金の刃物」と考えれば、母親が子供との縁を篤く（深く）すればするほど、母親は鑄びついてしまいます。

身が削られて運勢が落ちるということですよね。

このようにさまざまな状況を想定できるわけです。

⇒ ここでの勉強は【初年】の課程です。

算命学の基礎の段階ですから、ちょっと難しいとおもいますが、別の観方として……人物の場所で観てゆくことができるわけです。

宿命（6）①女性（宿命内・人物の場所） をみると、「丙火（太陽）」が年干の父親の場所にあります。丙火父親を太陽の陽射しと考えることができますから、父親が有り難いです。

母親の場所にある戌土は（土→金）と、彼女を生じてくれる関係ですから、彼女は両親の存在は有り難いのです。

このように観ることもできます。

⇒ **㊤女性**に限ったことではなくて……このような宿命の女性がいるとすれば、両親の生きているうちに結婚したほうがよいのです。

できることなら、結婚しても両親と一緒に住んだほうがよいですね。と宿命に書いてあるわけです。

⇒ どなたでも結婚すれば、女性は妻になり、結婚相手の男性は夫になります。

当然……夫の宿命が妻に影響を与えますし、妻の宿命も夫に影響を与えます。

子供が生まれれば〔両親の宿命が子供に影響します〕

〔子供の宿命も親に影響します〕

そうしますと、結婚して子供が生まれたら、子供をどのように育てたらよいのかといえ、子供の宿命を観て判断することになります。

そのときは、母親の宿命、父親の宿命、子供の宿命を観ます。子供に兄弟がいれば兄弟の宿命も観ます。

祖父母が生きていて一緒に住むようであれば、祖父母の宿命も観ることにもなるでしょう。

⇒ **㊤女性** は「自分と子供との縁を知りたいのです？」ということですが、未婚女性ですから、夫の宿命・子供の宿命もないわけです。その範疇で彼女の宿命を読むと、子供とべったりした暮らしで、縁を篤くすると自分が錆びて、運勢は悪くなるのです。

重複しますが……庚金の **㊤女性** にとって、子供は水性ですから〔子育てに苦勞するでしょう〕とはいえます。

しかし、子育ての苦勞から逃げたら……あとあと彼女に

わざわい

禍が振りかかってくるよ。その禍はさまざまです。そのような観方もあります。

⇒ **㊤女性** の場合、別の想定もできますよ。

さきほどちらっとそのことに触れましたけど……。

〔たとえば〕 **㊤女性** にとって、子供は育てにくい、子育てで苦勞します。

そのように宿命に書かれていても、結婚した夫の宿命には、〔夫にとっては、運勢的に子供は有り難い存在〕と、書かれていることもあるのです。

そうになると、とうぜん鑑定への答えは異なってきますよね。このようにさまざまな観方があるのです。

ここでの **㊦女性** に関するの〔母と子供の縁について〕はまだ結婚していない彼女の宿命だけを観たわけです。

占うときには、技法によって色々な観方があります。

それらの技法は、順序を追ってこれから勉強していくようになります。

⇒ 鑑定で個々の宿命を観たときに……。

自然界のなかでは、どのような存在なのか、どのような環境のなかに宿命が存在しているのか……という宿命のおかれている環境・事象を想定して、その印象を風景に描くことで、占いがしやすくなるとはいえませす。

“絵を描いて占う”ということではないですよ

宿命を観たときに……自然界のなかではこのような感じの状況があるのではということ想像する訓練をしておくと、あとあと役に立ちます。

⇒ 小泉純一郎さんの宿命は、自然の風景にし難いのです。

そこで宿命に五行を付記して説明します。

✽ 小泉純一郎 1942(s17)-1-8 宿命(1) 小泉純一郎

日 干	日 干 支	月 干 支	年 干 支
	(辛)	辛	辛

「^{しん}辛」は小泉さんの日干です。

日干は小泉純一郎自身を意味します。

子	酉	丑	巳
	↓	↓	↓

金	金	金
金	土	火

左記の五行になります。

金・金・金・金 ⇒ 金性だらけです。

金性が4つもあって、火性と土性があります。

小泉さんは、木性が1つもありませんし、水も1つもありません。

金性だらけで、とても片寄っていますけど、これは宿命の1つの特徴です。

片寄っている宿命、片寄っていない宿命、それらのどちらが良くて、どちらが悪い、ということはありません。

このことは勉強していくとご理解できます。

宿命の〔片寄り〕でいえるのは、片寄った宿命の人は、片寄った生き方をすることが、宿命どおりということになります。

片寄った生き方に向いていて、それが宿命通りです。

片寄った宿命というのは、言葉をかえれば……。

バランスが悪い宿命

バランスが悪い宿命だから、悪いとは決まっていません。なぜかといえ、このような宿命の人は、「バランスが悪いときに必要とされる」という意味があります。

バランスが悪い宿命 ⇒ バランスが悪いときに必要とされる

そのような運勢の持ち主なのです。

〔たとえば〕 バランスの悪い宿命の人が、会社に勤めて普通のサラリーマンだとします。

会社の存続という意味では、経営が順調に運んでいて、会社の好調な時期と、反対に借金が増えて会社のバランスが悪くなる時期とかあります。 ➡

片寄ってバランスの悪い宿命は、会社のバランスが悪くなって、会社が傾きかけて来ると出世するとかです。

もともとバランスが悪いですから、震災とか、コロナとかで、国全体が不安定でバランスが崩れている状況にも対応できるわけです。

そのような時期になると宿命が動いて生きてきます。

つりあいの良い宿命の人は、安定していて、調和がとれているときのほうが、チカラを発揮できます。

会社が順調な状況のときに出世します。

バランスが良い宿命なのに、バランスの悪い会社に入社してしまうと、宿命からはずれることになります。

そのような環境では、宿命を生かすことはできません。

☞ バランスの良い宿命の人は、バランスが良い環境のほうが合っています。そのほうが成功します。

☞ バランスが悪い宿命の人は、バランスが悪い環境のほうが合っています。そのほうが成功します。

☞ 小泉さんが総理のときには、日本の国勢（国の動勢）はバランスが悪かった時代です。

小泉さんが首相になった頃は、景気もよくないし、政治家もつぎつぎと逮捕されてしまうとか、政府の借金も膨らみ、いろいろな事象が山積みで、極めてバランスが悪かったと考えられます。

そうしますと、日本が順調であったなら、小泉さんが首相に選ばれたと思いますか……どうでしょう。

日本が順調であれば、国民が彼を圧倒的に支持するということはなかったはずですよ。

結果論として、小泉さんの政策については、良いとか、悪いとか、さまざまな御意見があるでしょうけど——、当時の日本にとっては、このような宿命の持ち主が総理になったということがよかったと考えます。

そうでなければ“改革”はできないといえるのです。

小泉さんは、自分の宿命に適応した時期に総理になったわけですよ。

✽ 小泉純一郎 1942-1-8

宿命（2）小泉純一郎

辛 辛 辛

宿命を読む順番は「辛巳」「辛丑」「辛酉」

子

酉 丑 巳

「しんきんのみ」「しんきんのうし」「しんきんのとり」

丑

癸 戊

宿命を読むときは、年干支、月干支、日干支の

辛 庚

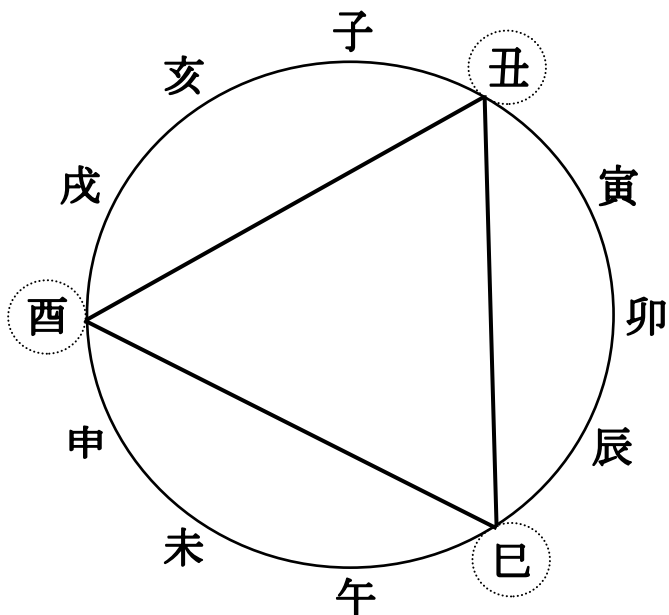
順序で読みますよ。

辛 己 丙

ね うしてんちゅうさつ
子丑天中殺

地支をみると ^{とり うし み}酉 丑 巳 です。

宿命（3）大三合会局の図



小泉さんの宿命は ^{み とりうし}(巳酉丑) ^{だいさんごうかいきょく}の大三合会局です。

とても大きな器のもち主です。

政治家のなかで、大三合会局をもつ宿命の人物はほかにいません。宇宙盤というのがあります。そのなかで最大面積を占める三角形が大三合会局の宿命です。それだけに「非常に生きづらい」のです。そこが変人といわれるゆえんです。

もちろん、小泉さんとおなじ生年月日の人はたくさんいますけど、普通の生き方では、この宿命を消化できません。

安定している時代においては、活躍できない宿命といえます。

つまり、動乱期に活躍できる宿命です。

ある技法をもちいると、彼に影響を与えている先祖の霊魂の存在を知ることができ、本人もその影響を受けることになります。

小泉さんは「生月中殺」という宿命中殺をもっています。

生月中殺には“家系の質を変える役目を背負う”という意味があります。

旧来のやり方を一変させるような、政治手法が合っています。

これだけ大きな器は、市長とかでは宿命を発揮できません。

一国を動かすことで、宿命が生きてきます。

それゆえに、宿命を活かせる時代背景がなければ、総理になることは出来ないのです。

どんなに素晴らしいとおもえる宿命であっても、時代が味方しなければ、宿命どおりに生きることは、極めて困難です。

坂本龍馬にしても、時代が味方しているのです。

小泉さんのように、特殊な宿命の人と結婚するには、相手の女性もそれなりの宿命でなければ、添い遂げることは難しいのです。

＊ 田中角栄 1918(大7)-11-14 1993-12-16〔75歳没〕

						1 丁巳	
	辛	丙	戊		玉堂星	天胡星	11 戊午
寅	亥	辰	午	調舒星	玉堂星	車騎星	21 己未
卯		乙		天恍星	牽牛星	天庫星	31 庚申
	甲	癸	己				41 辛酉
	壬	戊	丁				51 壬戌
							61 癸亥
							71 甲子

＊ 佐藤昭子 1928(昭3)-8-5 2010-3-11〔82歳没〕

							10 戊午
	丁	己	戊		調舒星	天堂星	20 丁巳
申	丑	未	辰	鳳閣星	鳳閣星	調舒星	30 丙辰
酉	癸	丁	乙	天庫星	調舒星	天南星	40 乙卯
	辛	乙	癸				50 甲寅
	己	己	戊				60 癸丑
							77 壬子
							80 辛亥

日干「丁火」まわりはすべて土性です。

☞ 変わった宿命ということで……。

田中角栄さんと ^{えつざんかい}越山会の女王・佐藤昭子さんの宿命を参考までに記載しました。

田中角栄さんは算命学で ^{うんりゅうがた}「雲龍型」の宿命です。

佐藤昭子さんの宿命は ^{こつにくぶんり}「骨肉分離」の宿命です。

田中角栄さんは、算命学の〔例題〕によくでてきます。

【初年】 16回目【宿命の観方・読み方】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 17回目【色について】